

Serendipity !

～振り返り I～

校長 堀越 裕之



早いもので今年度も学校でいうと、残り後36日で平成26年度の修了式、翌日卒業式を迎えます。例年この時期学校は、今年度を評価しつつ、次年度の教育課程（教育計画）を作成しています。そこで、私も少し早いのですが、来年度に向けて今年度の「振り返り」を始めようと思います。

話は変わりますが、アルフレッド・ノーベルによるダイナマイトの発明、キュリー夫妻によるラジウムの発見などのような発明を**セレンディピティ**（英語：serendipity）と表現するそうです。それは、「当てにしていなかったものを偶然に発見する才能」とか、「偶然によって思いもよらぬ発見・発明をする能力」という意味で使われています。しかし、セレンディピティは、偶然、幸運以上の時に使われる言葉だそうです。

もともと「serendipity」という言葉は、イギリスの政治家にして小説家であるホレス・ウォルポールが1754年に生み出した造語で、彼が子供のときに読んだ『セレンディップの3王子（Three Princes of Serendip）』という物語にちなんだものだそうです。それは、セレンディップという国（現在のスリランカ島）の3人の王子の冒険にまつわるお話です。3人の王子は、人々を悩ませるドラゴンを退治する方法が書かれている巻物を求めて旅に出ます。綿密に計画をたてて出発した王子たちですが、旅は思い通りに運びません。でも、さまざまな困難な出来事や災難に巻き込まれつつ、偶然と知恵によって、思いもかけぬことを次々と発見し予想外の貴重な体験を、宝物を得るというアドベンチャーな話です。ウォルポールがこの言葉を初めて用いたのは、友人に宛てた書簡において、自分がしたちょっとした発見について説明しているくだりにおいてで、その書簡の原文（和訳）も知られています。

『この私の発見はまさに私に言わせれば「セレンディピティ」です。このセレンディピティという言葉はとても表現力に満ちた言葉ですよ。この言葉を理解していただくには、へたに語の定義などするよりも、そ

の物語を引用したほうがずっとよいでしょう。かつて私は『セレンディップの3人の王子』という童話を読んだことがあるのですが、そのお話において、王子たちは旅の途中、いつも意外な出来事と遭遇し、彼らの聡明さによって、彼らがもともと探していなかった何かを発見するのです。例えば、王子の一人は、自分が進んでいる道を少し前に片目のロバが歩いていたことを発見します。何故分かったかということ、道の左側の草だけが食べられていたためなのです。さあ、これで「セレンディピティ」がどのようなものか理解していただけただけでしょうか？』

長々と引用しましたが、何故このまとめの時期にこのような話を持ち出したかということ、今年度の八小の一年を振り返ってみると、まさにこの「セレンディピティ」だったのではないかと思ったからです。私は以前の学校でも幸運にも「セレンディピティ」を経験することができたのですが、まさか次の学校でもこんなに早く味わうことができるとは思っていませんでした。

本校では今年度から子どもたちの「問題解決能力の向上」を謳い生活科、理科教育を中心にすべての教育活動充実に努めてきました。しかし、その姿を見ている内に「この子たちならもっとできるのでは？」と思い始め、2学期からその取り組み範囲を学年に応じて広げてきました。すると、さっそく運動会で、そして社会科見学等で、さらに学芸会で子どもたちが課題解決に対する積極性高まりが見られるようになってきたのです。しかも、成果は単に生活科、理科教育その他教科等、活動だけにとどまらず、子どもたち個人の変容も見られるようになりました。人前で話すことが苦手なお子さんが、それまであまり積極的ではなかったお子さんが、「あゆみ」や先生の週ごとの指導計画の振り返りにその「変容」がメモされたのです。私としてはここまで変化が見られるとは予想もしませんでした。子どもたちは、問題解決のプロセスが分かってきたようです。

来年度も引き続きこの貴重な宝物をさらに磨いていきたいと思っています。



【言語能力向上拠点校としての取組 —TBSアナウンサーとの交流会—】

本校は、今年度、言語能力向上拠点校として、東京都教育委員会の指定を受け、様々な取組を実施しています。取組内容は、

- ① 校内研究(理科・生活科)を通して、論理的思考力、コミュニケーション能力や多様な観点から考察する能力の育成を目指す。
 - ② 美しい日本語を身に付け、美しい言葉の意味やその背景を理解する。
 - ③ 豊かな読書生活を育む学校づくりを推進する。
 - ④ 社会生活に役立つ言葉を育む学校づくりを推進する。
- の4項目としています。



そこで、【④ 社会生活に役立つ言葉を育む学校づくりを推進する。】ための取組として、1月24日(土)体育館において、TBSアナウンサー 安東弘樹様を講師としてお招きし、講演会及び交流会を行いました。

講演会では、アナウンサーという仕事について、視聴者にわかりやすく伝えるために心がけていることなどについて、貴重なお話をいただきました。児童との交流会では、アナウンス練習として全校児童で発声練習をしました。また、5・6年生児童代表によるニュース原稿を読む練習をしました。映像を映し、本番さながらにニュース原稿を読み上げました。「一番伝えたいことは何かを考えて、言葉にすることが大切である。」ことを学びました。

今後も、日本語を大切に、「美しい日本語」を話す児童の育成を図っていきます。

【放課後学習支援教室（AアフターSスクールSサポート）が、来年度より本校で始まります。】

「くにたちの教育・(国立市教育委員会発行 平成26年8月5日 第136号)」でお知らせしましたが、国立市教育委員会では、放課後、学校で学習に取り組む機会と場所を設けることにより、児童が「わかる・できる」喜び、学ぶ楽しさを実感し、主体的な学習習慣を身に付けることができるよう支援しています。放課後学習支援教室は、平成26年5月より、市立小学校4校で実施しています。

本校は、来年度より、放課後学習支援教室が実施されます。詳細については、後日お知らせいたします。

【読書週間】

図書担当 伊東 由

1月26日から読書週間が始まりました。今季は2月6日までの2週間で、朝の時間等を使って読書に親しみます。先週22日(木)には図書集会有り、図書委員が創作した台本による楽しい劇で、本の紹介をしました。図書室では、くじを引いて出た本を書架から探し出すとポイントが付く「本さがしクイズ」を実施しています。早くもポイントが貯まり、図書委員手作りの景品を獲得した児童もいます。各教室の廊下には児童が作成したおすすめの本カード、図書室前には先生方のおすすめの本ポスターを掲示しています。

また、2月2日(月)には保護者のボランティアの方によるスペシャル読み聞かせ会を実施します。以前、低学年の朝読書の時間に来ていただいた方々ですが、手の込んだペープサートや手作りの人形がすばらしく、今回は中休みに視聴覚室で行って頂くことになりました。どの学年の児童も楽しめることと思います。

これらの取り組みを機に、児童がよりいっそう読書に親しめるようになることを願っています。

【国立市公立小学校ミニバスケットボール大会に向けて】

国立市公立小学校ミニバスケットボール大会は、育成会のご協力をいただき、今年で第12回となりました。この大会は、市内6年生児童の交流の場を作り、スムーズな中学校生活への移行を願い、市内の教員や保護者から実行委員を募り、平成15年度から開催してきました。

1月14日(水)から、朝練習・放課後練習が始まりました。6年生は、真剣に担任のアドバイスを聞いて練習しています。また、6年生同士が声をかけあいながら、互いのプレーを認め合う姿が見られ、とても頼もしく感じました。大会及び練習の参加は、希望者のみとなりますが、同じ仲間として、学年一丸となって臨もうと思います。

2月の行事予定

生活目標 : 「感謝の気持ちを伝えよう」・「体をきたえよう」

4日(水) 安全指導、新1年保護者会

5日(木) 委員会活動

6日(金) 読書週間終

12日(木) クラブ活動

13日(金) 避難訓練、クラブ活動

14日(土) ミニバスケットボール大会【本校体育館】

17日(火) たてわり班デー

19日(木) クラブ活動終

20日(金) 学校公開、租税教室(6年)

クローバー体験学習(3年)

24日(火) さくら合同学習

25日(水) 校内研究会研究授業(2年1・2組)・午前授業

※給食あり・2年生以外は、下校13:10

26日(木) 全校朝会

27日(金) 6年生を送る会